

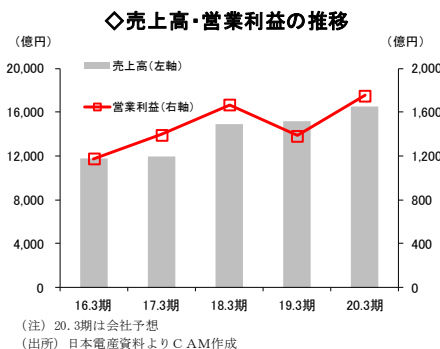
企業ニュース 日本電産

(東証1部: 6594) <https://www.nidec.com/ja-JP/>

作成者: 村上大志

車載向けに注力し、売上高2兆円を目指す

1973年、設立。「世界No. 1」を追求するというアイデンティティの下、精密小型モータにおける数々の技術革新、海外代理店の拡張、積極的なM&Aなどで事業を拡大してきた。特にM&Aを成長の原動力として戦略的に活用、国内外で60社以上のM&Aを実施し、PMI（M&A成立後の統合プロセス）の評価も高い。2019年4月にオムロンの車載事業を買収することを発表した。自動運転のセンサー製品群がほぼそろそろ形となり今後の展開が注目される。同年7月には家電用コンプレッサ事業のエンブラコ社の買収が完了し、早期のシナジー効果発現が期待される。



中期戦略「Vision 2020」では、21.3期の連結売上高2兆円（新規M&A約5,000億円含む）のうち車載売上高7,000億円～1兆円、連結営業利益率15%以上、ROE 18%以上を目標に掲げる。

トラクションモータの受注が加速

20.3期・第1四半期（4-6月）の連結業績は売上高が3,609億円、前年同期比3%減、営業利益が280億円、同39%減。前四半期（19.3期・第4四半期）から回復傾向だが、トラクションモータ（E-Axle）の受注が急速に積み上がったことによる先行開発費の増加や、メキシコ工場での高収益製品の立ち上がりの遅れなどで営業減益となった。また、エンブラコ社買収に伴うセコップ社の売却で一過性費用198億円を計上し、当期利益は大幅な減益となった。

20.3期の会社計画は売上高が1兆6,500億円、前期比12%増、営業利益が1,750億円、同34%増。マクロ環境は楽観視できない状況だが、メキシコ工場の立ち上げ遅れの解消や構造改革による固定費削減などを見込み会社計画を据え置いた。トラクションモータは中国からの受注が急増していることに加え、欧州からの引き合いも活発な模様。同モータは短期的には急ピッチな能力増強に伴う先行費用が増加するが、EVシフトに伴い事業の柱の1つに成長することが期待される。HDD用モータは収益性の高いデータセンタ向けなどが堅調で、業績への貢献が見込まれる。

[株価動向・投資判断]

先行きが懸念されていたが、通期計画の据え置きが評価され株価は上昇した。当社モータへの需要は根強いことに加え、買収効果の発現で業績拡大が期待できよう。

<6594 日電産 業績:IFRS>

[今期予想の配当金は発行会社予想]

	売上高	営業利益	税引前利益	当期利益	1株利益	1株配当
	百万円 (伸び率)	百万円 (伸び率)	百万円 (伸び率)	百万円 (伸び率)	円	円
18.3	1,488,090 (24)	166,842 (20)	163,665 (16)	130,834 (18)	441.9	95.00
19.3	1,518,320 (2)	138,620 (▲17)	139,014 (▲15)	110,798 (▲15)	375.8	105.00
20.3 予	1,650,000 (12)	175,000 (34)	170,000 (30)	135,000 (22)	458.7	110.00

(注) 20.3期よりセコップ社を非継続事業に分類。そのため売上高、営業利益、税引前利益の伸び率は会社側の遡及修正値を掲載。



[主要株価指標] (売買単位: 100株)	
株価 (2019/7/29)	14,410 円
年初来高値 (高値日)	16,255 円 (19/4/24)
同安値 (安値日)	11,405 円 (19/1/18)
予想PER (20.3 予)	31.4 倍
1株株主資本 (PBR算出用)	3,227.1 円
PBR	4.47 倍
予想配当利回り	0.76 %
(1株当たり配当金年110.00円)	
ROE (19.3)	11.5 %
発行済み株式数	29,814 万株